

みなさんと一緒につくる豊岡のアートの見本市

「とよおかアート縁日」開催

9月23日、豊岡市民プラザで、「とよおかアート縁日」を開催しました。

特設ステージでは、市内の高校生や豊岡に滞在するアーティストらによる多様なプログラムを実施した他、豊岡を舞台としたNHKの兵庫発地域ドラマ「あつたまるユートピア」の出演者らによるトークショーも行いました。また、会場内には、博物館などの施設による「豊岡のアートを楽しむ」

「ブースや市内の飲食店による「豊岡の食を楽しむ」ブースも出展。別室では、ダンサーの森下真樹さんによるワークショップを開催し、新たに制作した「豊岡アートシーズン音頭」に振り付けして、会場内の参加者と一緒に踊りました。今回は、企画から運営まで高校生もスタッフとして参加し、さまざまなプログラムを通して、豊岡の文化芸術の魅力を発信しました。



▲イベントの締めくりに会場内の参加者で踊った「豊岡アートシーズン音頭」

「ニューヨーク&ロサンゼルスでプロモーション」  
「日本食レストランエキスポ」などでコウノトリ育むお米をPR

9月18日、国連総会に合わせてニューヨーク(米国)で開催された日本政府主催のレセプションで「コウノトリ育むお米」を使用した料理が振る舞われ、ステージ上では、市職員が、同米をPRするとともに、本市が取組むコウノトリ育む農法を説明しました。このレセプションへの参加は、昨年と同米を使用していただいては、ニューヨークの高級和食レストラン「ブラッ

シュストローク」の総料理長の推薦で実現しました。22日には、同店で出石そばや、ズワイガニのカニミソなどの食材を使用した特別メニュー「豊岡懐石」も提供され、市長がスピーチを行いました。また、23日と30日には、ニューヨークとロサンゼルスで開催された日本食取扱業者が集まる「日本



▲ニューヨーク日本食レストランエキスポでPRする中貝市長(後列中央)ら

平成29年度(上半期)市交際費執行状況

《市交際費の区分別内訳》  
(平成29年4～9月)

区分	金額(円)
御祝(祝金)	108,000
御祝(清酒等)	58,206
御供(香典等)	155,000
御供(供花)	140,400
見舞金	100,000
会費・負担金	229,000
贈答品	38,600
協賛	62,082
市政PRグッズ	142,566
合計	1,033,854

※詳細は、秘書広報課の窓口で閲覧できる他、市ホームページにも掲載しています。

主な市政の動き

〔9月〕

11日・城崎温泉怪談祭「城崎怪団」(～15日)  
15日・豊岡総合庁舎地下貯留施設「工事現場見学会」(～16日)

・ウイットマン中学校訪問交流(～21日)(米国シートル市)  
17日・台風18号豊岡市災害対策本部(～18日)

・弾道ミサイルを想定した情報伝達訓練  
19日・高齢者向け「KDDI スマートフォン教室」(26日・N.T.T.ドコモ)

21日・豊岡市環境審議会

23日・とよおかアート縁日  
27日・豊岡市空家等対策協議会

30日・植村直己冒険賞授賞式

〔10月〕  
1日・健康企業「歩キング」開始

・豊岡市在宅医療・介護連携支援センター開所式  
2日・「デマンド型交通サービス実証実験」開始式

7日・台風23号メモリアル水防訓練  
重伝建地区「選定10周年記念シンポジウム」

10日・豊岡市公営企業審議会

未来につなぐ 出石のまちなみ

## 重伝建地区「選定10周年記念シンポジウム」開催

出石城下町地区が、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されてから今年で10年になることを記念して、10月7日、出石永楽館で「選定10周年記念シンポジウム」を開催しました。

国の選定から現在までの取り組みを振り返るとともに、今後も町並み保全に取組む中で、次の10年に向けたステップアップを図りました。

県教育委員会参与の村上裕

## 近畿大学×大阪大学×全但タクシー(株)×豊岡市の産官学連携「デマンド型交通サービス実証実験」開始

10月2日、バスの定期運行等がない公共交通の空白地帯を解消するため、新たな交通モード(手段)を実験する「デマンド型交通サービス実証実験」が開始されました。近畿大学と大阪大学が、共同研究した簡易乗降車予約システムで、本市で初めて行われる実験です。

対象エリアは、城崎地域の円山川右岸の4区(飯谷、楽々浦、戸島、結)で、全但タクシー

道さんが「地域の持続性に貢献する重伝建地区とは」と題した講演を行った他、「外から見た出石、内から見た伝建」をテーマに村上さんと出石まちなみ保存会・同設計士会の会長らによるパネルディスカッション、伝統的建築物の所有者による修理体験談などが発表されました。



▲県教育委員会参与の村上さんの講演

(株)が、利用者の予約に応じて、月・水・金曜日の週3日、城崎地域の中心部の指定乗降場所を運行します。料金は片道300円。区民は事前登録し、貸し出しされた専用端末やスマートフォンでの専用アプリを使って予約します。



▲JR城崎温泉駅前で行われた「実証実験」開始式

## 中貝市長の徒然日記 ⑫

### ほたるの光

市の移住相談窓口を通じたUITターンのエンジンがかかってきました。

窓口での相談から移住につながったのは、昨年度11組27人でしたが、今年度は上半期だけで16組33人。半年で既に昨年度1年分を超えています。

この1年半の移住者60人のうち30代以下の方が全体の6割を超えています。若年層の流出が豊岡の人口減少の最大の要因であることを考えると、実に喜ばしい傾向です。特筆すべきは、出石の奥山区です。今年4月に16人であった人口は、10月には21人へ。31・25%増です。世帯数は10から13へ。30%の増。20代2人が移り住み、平均年齢は、73・5歳から67歳へ。マインナス6・5歳です。

平成16年、台風23号が奥山を襲いました。裏山が崩れてつぶれた家では、お一人の命が奪われました。田舎暮らしがしたいと、都会から移り住んでこられた方でした。

「真っ暗だった。電話は通じなかった。歩いて山道を下りていった。道路は崩れ、木が覆いかぶさり、恐ろしい緊張の中で、ようやく下にたどり着いて助けを求めた。でも、間に合わなかった」

孤立した、そして孤独だった。奥山は、しかし、村の出身者を含め、皆で力を合わせました。ほたる祭りを開催し、手打ちそばの店を開き、厨房を備えた交流拠点「一輪亭」や一時的滞在施設「奥山ほたるビレッジ」を村で作成し、村のホームページを作成し、ファンクラブも作りました。

携帯電話も電波が入るようになりました。

熱意が通じたのか、ほたるビレッジは、一時居住どころか住民票を移してきた人で4棟全てが埋まりました。そのうちの1人は20代の地域おこし協力隊員です。

この村が好きだ。ここでのいいのだ、奥山でいいのだ。村の人たちのその思いが、暗闇の中のほたるの光のように輝き始めています。